

令和3年度京都大学公共政策大学院

入学試験問題（一般選抜）

科目名：経済政策

この表紙の次には、「経済政策」の試験問題が1ページある。

答案用紙2冊を配付するので、1冊に書ききれない場合は2冊目を用いて解答すること。

2冊とも、所定の欄に科目名を記入し、科目名の横に①、②と記載すること。答案用紙はすべて提出すること。

科目名 経済政策

開放経済下での財政政策と金融政策等の有効性を説明する「マンデル=フレミング・モデル」について、以下の(1)～(7)の問いすべてに解答しなさい。

- (1) 財市場を均衡させる利子率と所得の組み合わせである IS 曲線を導出しなさい。
- (2) 為替レートを外生変数と考え、為替レートの変化によって IS 曲線がどのようにシフトするかを説明しなさい。なお、為替レートは、名目為替レートでも実質為替レートでも構わない。
- (3) 貨幣市場を均衡させる利子率と所得の組み合わせである LM 曲線を導出しなさい。
- (4) 資本移動が完全に自由であるとき、固定相場制の下での財政政策と金融政策の有効性について議論しなさい。
- (5) 資本移動が完全に自由であるとき、変動相場制の下での財政政策と金融政策の有効性について議論しなさい。
- (6) ①為替レートの安定、②自由な資本移動、③自律的な(外国からの影響を受けない)金融政策という3つの望ましい政策は鼎立しない(3つのうち2つは両立可能だが1つは放棄せざるをえない)という「国際金融のトリレンマ」を「マンデル=フレミング・モデル」から導出しなさい。
- (7) 歴史上または現在の国際通貨システムを一つ取り上げ、それを「国際金融のトリレンマ」を使って(どの2つを採用して、どの1つを放棄したかを)説明しなさい。